

市立病院だより

平成25年新年号

目次

- 新年のご挨拶 病院長 瓜生 康平……………1
- 転倒予防講座 副院長 力丸 俊一……………2
- 感染対策委員会の活動について 感染対策委員 山下 信二……………3
- 中間市コミュニティ文化祭参加の報告等、外来診療案内……………4



題：「冬華」 撮影者：林 利弘 様（フォトクラブ中間）ご提供

新年のご挨拶

中間市立病院 病院長 瓜生 康平

新年明けましておめでとうございます。

昨年は景気減速や消費増税など暗い話題も多い中、オリンピックキヤーで競泳の鈴木選手をはじめ、女子レスリングやサッカー、卓球などのメダル獲得で湧き上がり、年末には山中教授のノーベル医学生理学受賞が明るい希望をもたらしてくれました。総選挙では3年ぶりの政権交代で経済も上向きの気配が感じられる中、新年を迎えました。

当院では、昨年64列マルチスライスCTや内視鏡画像を含めた画像管理システム等の導入を行い、また転倒予防教室や介護支援教室、健康サポート教室などの予防医学活動を十数回行なうなど新たな活動を開始しました。

一方で公立病院改革プラン評価会議では3年間の実績に対してある程度評価をいただき、また中間市行政経営改革有識者会議においては当院が「安定した経営の下で良質な医療を継続して提供し続ける使命があり、地域にとって不可欠なもの」とされました。しかし経営改革はまだ十分とは言えず、新病院構想コンサルティング報告同様に、今後も健全化に向けた努力をする必要性を指摘されました。

院長に就任して以来、職員の意識改革として、病院運営に一般職員が参加する運営企画委員会活動などに取り組んできました。少しずつですが、その成果は上がっていると感じています。昨年の「患者様満足度アンケート」では、90%以上の方に、言葉遣いや態度は「やや満足」以上の、病状などの説明については「わかりやすい」以上の評価をいただきました。大変有難い評価をいただきましたが、これに満足せず努力する必要があると思っています。今までは過去の市立病院が評価対象でしたが、今後は近隣の優良といわれる病院を評価対象として、より高い目標に向かって改革に取り組んでいく意識が重要と考えています。今まで以上に忌憚ないご意見をいただければと思います。

今年も「安全かつ質の高い医療」と「明るく優しい患者様への思いやり」のある療養環境」を提供できる病院として、多くの市民の方々にご利用いただけるようさらなる努力をいたす所存です。本年もご支援のほどよろしくお願い致します。

転倒予防講座

整形外科医師 力丸 俊一 副院長

はじめに

特に高齢者の転倒による骨折が原因となり、寝たきりになると、本人はもちろん家族や周囲の人々への精神的・社会的および経済的負担は計り知れません。高齢化社会に伴い、転倒による骨折は全国的にも増加傾向にあり、転倒予防は今後取り組むべき重要な課題の一つと考えられます。多くの市民の方に転倒予防を広く周知して頂くことにより、寝たきりを防ぎ、生き甲斐のある人生が送れることを切に望む次第であります。

転倒骨折の弊害

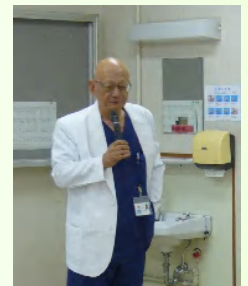
転んで骨折すると、足腰が弱り、日常生活の活動が低下します。不活発な生活になると、心身の機能低下や畑仕事・ゲートボールなどが出来なくなります。その結果、徐々に閉じこもりになって、最後には寝たきり状態や人生に生き甲斐を失う生活に陥る弊害があります。

転倒骨折の現状

平成23年度の中間市の統計によれば、65歳以上の高齢者は13,379人(総人口の29.9%)に達し、その内、要支援・要介護認定者は2,881人(21.5%)です。要支援・要介護認定者の原因疾患は脳血管障害や認知症に次いで、転倒骨折が第3位(約9%)となっています。また中間市の要支援・要介護への総支給額は約35億円にも達している現状があります。

転倒予防講座紹介

講座は入院中の患者さまを対象に平成24年9月7日より中間市立病院内で開始しました。医師・看護師・理学療法士・管理栄養士による4講座からなり、1講座の時間は約30分で行なっています。病院では4講座を月4回に分けて行ない、4講座をすべて受講された方には、転倒予防受講証明書をお渡しして好評を得ています。



講座内容

- 医師：転倒・骨折について概論
- 看護師：看護師の立場から主に院内での転倒予防について
- リハビリ：リハビリの立場から主に下肢の筋力トレーニング
- 栄養士：栄養士の立場から主に骨粗鬆症に対する食事指導



今後の予定

平成25年4月より一般公開(無料)を予定。対象は受講を希望される中間市民および中間市周辺の方々。講座日は祝日以外、毎週金曜日午後16:00より、保健センター会議室で行ない、受講者は1回につき30~50人を予定しています。詳細については後日、広報にてお知らせする予定です。

転倒予防講座開催

転倒予防の理解や知識を得てもらうため、転倒予防講座を開催いたします。ふるって、御参加ください。

骨を強くする
転びにくい体づくりや
環境づくり



感染対策委員会の活動について

感染対策委員（診療放射線技師）山下 信二

当院では、私たち感染対策委員会は、病院内における病原体の感染を防ぎ患者さま・職員の安全を守ること（院内感染の防止）を目的に活動しています。医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・栄養士・理学療法士・診療放射線技師などの多職種で構成され、定例会議を毎月第2火曜日に行っています。

院内感染とは？

医療機関において患者さまが原疾患とは別に新たに罹患した感染症のことです。院内感染は、人から人へ直接、又は医療機器、環境等を媒介として発生します。特に、免疫力の低下した患者さま、ご高齢の方等は通常の病原微生物のみならず、感染力の弱い微生物によっても院内感染を起こす可能性があります。（医療従事者等が医療機関内において感染した感染症も院内感染です。）

活動内容

院内感染発生状況の報告

- 毎週、各種耐性菌の発生状況を各科へ報告しています。（感染レポート提出）
- 院内感染の可能性のある感染症は直ちに電話で各科に報告します。

院内感染対策マニュアルの整備・更新

- 感染対策マニュアルを必要に応じて改正し、これを職員に指導します。（入院患者インフルエンザ発生時マニュアル、ノロウイルス等による感染性胃腸炎の予防対策等）

院内感染対策に関する院内研修会の開催

- 年2回以上の研修会を行い、感染対策への関心を高め技術習得を行っています。
- 手指衛生の遵守率向上のための取り組みを行い、研究発表しました。

感染対策委員による月1回の安全パトロール

- 各チェック項目にしたがい、正しい感染対策が行われているか各科の巡回をしています。

届出制指定抗菌薬の使用状況報告

私たち感染対策委員会は今後とも感染防止に努め、患者さまに安全かつ安心で質の高い医療サービスを提供するため、さらに継続した委員会活動を行ってまいります。



